

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
株主確定基準日 定時株主総会・期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
その他必要あるときは、あらかじめ公告いたします。

定時株主総会 6月
公告方法 電子公告の方法により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告を行うことができないときは、日本経済新聞に掲載します。
公告掲載URL (<http://www.denka.co.jp/>)

株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
(電話照会先) 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-78-2031(フリーダイヤル)

上場証券取引所 東京証券取引所
証券コード 4061

■ 住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

■ 未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

■ 株主様のご住所・お名前に使用する文字に関してのご案内

株券電子化実施にともない、株主様のご住所・お名前の文字に、株式会社証券保管振替機構(ほふり)が振替制度で指定していない漢字等が含まれている場合は、その全部または一部をほふりが指定した文字またはカタカナに変換して、株主名簿にご登録いたしております。このため、株主様にご送付する通知物の宛先が、ほふりが指定した文字に置換えられる場合がありますのでご了承ください。株主様のご住所・お名前として登録されている文字については、お取引の証券会社等にお問い合わせください。

■ 「配当金計算書」について

配当金支払いの際、送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。
なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、本年から配当支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。

電気化学工業株式会社

<http://www.denka.co.jp/>



特集 デンカ成長戦略② 競争力ある製品の強化



News & Topics

アジアを中心とした拠点拡充
太陽電池関連部材の展開



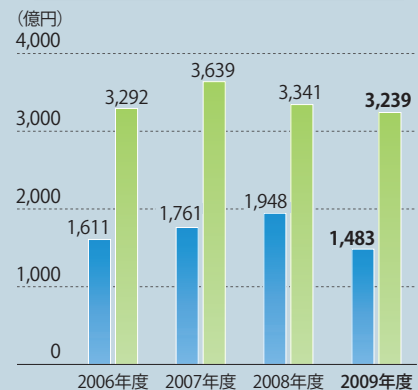
Face of DENKA
その知られざる素顔

vol.2 環境負荷低減と
製品のコスト競争力を
自家水力発電が下支え

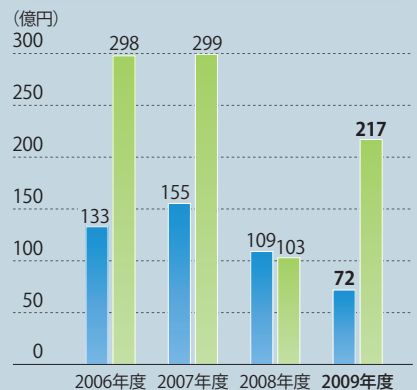
株主様限定
潤基礎化粧品シリーズ
優待販売のご案内

- 2 連結財務ハイライト
- 3 ごあいさつ
代表取締役社長 川端世輝
- 4 デンカのビジネスと成長戦略
- 6 特集 デンカの成長戦略②
競争力ある製品の強化
- 8 News & Topics
アジアを中心とした拠点拡充
太陽電池関連部材の展開
- 9 Face of DENKA その知られざる素顔
Vol.2 環境負荷低減と製品のコスト競争力を
自家水力発電が下支え
- 10 セグメント別概況
- 12 連結財務諸表(要旨)
- 14 会社情報
- 15 株式情報
- 巻末 株主様限定
潤基礎化粧品シリーズ優待販売のご案内

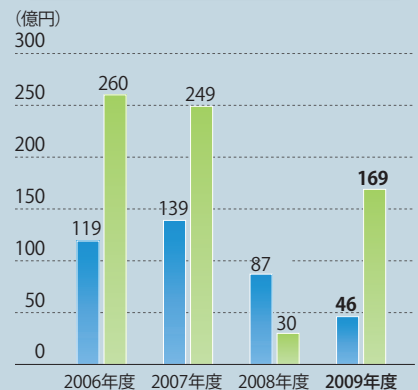
売上高



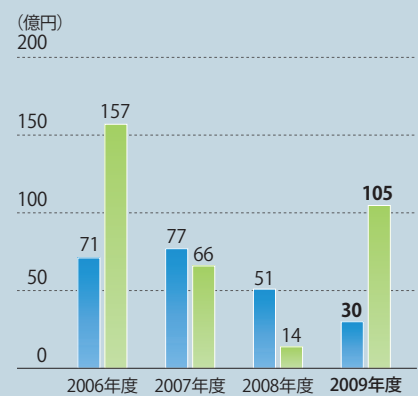
営業利益



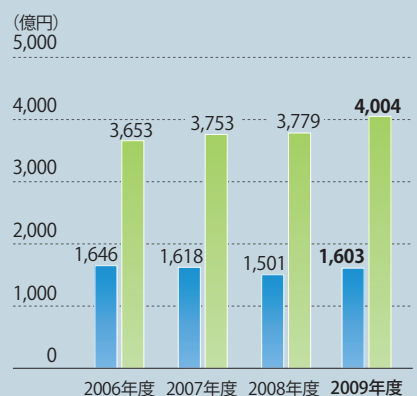
経常利益



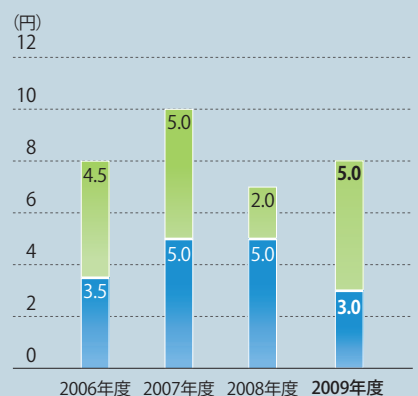
当期(中間)純利益



純資産/総資産



1株当たり配当金



“DS09”の最終年度を迎え、 素材事業の立て直しと海外事業の強化に取り組みます



株主のみなさまにおかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。第151期(2009年度)の当社概況をご報告するにあたり、ひとことごあいさつを申し上げます。

2009年度は、経済危機によって落ち込んだ収支を立て直すことを最優先課題として、労務費を含めたあらゆる領域での固定費の削減や在庫の見直し、拡販に努めてまいりました。その結果、2009年度下期の利益は、危機前の2007年度下期とほぼ同水準まで回復いたしました。2010年度は、1年間延長した“DS09”の最終年度にあたり、この目標にできる限り近づき、“DENKA100”に向けた新たなステップとするべく、以下の課題に取り組んでまいります。

第一に、素材事業の立て直しです。2009年度、電子材料事業と機能・加工製品事業は、主要製品の需要回復や新型インフルエンザの流行にともなう関連製品の特需もあり、

大幅な増益となりました。一方で、有機系素材事業は、先進諸国の経済回復の遅れや円高の影響から、収益の回復に時間がかかっており、また、内需中心の無機系素材事業も、厳しい状況が続いております。そのため2010年度は、好調な事業をさらに伸ばしていくことに加え、増設の完了したクロロプレングムの着実な販売や、スチレン系樹脂・無機系素材事業の見直しを進め、素材事業において安定的に収益を得る態勢を再構築したいと考えております。

第二に、海外における販売力の強化です。昨年シンガポールにアジア地域の統括会社を設立したことに続き、本年は中国事業を統括する代表部を設置し、またインドや韓国にも関係会社を通じ拠点を設立するなど、経済危機後の状況を見据えた海外展開の布石を着実に打ってまいりました。これにより、クロロプレングムやスチレン系樹脂といった従来からの国際商品だけでなく、成長が期待される電子材料やこれまで国内を中心に培ってきた特殊混和材など、当社グループの潜在能力を世界規模で発揮していきたいと考えております。

株主のみなさまには、今後とも変わらぬご支援とご鞭撻をたまわりますよう、よろしくお願い申し上げます。

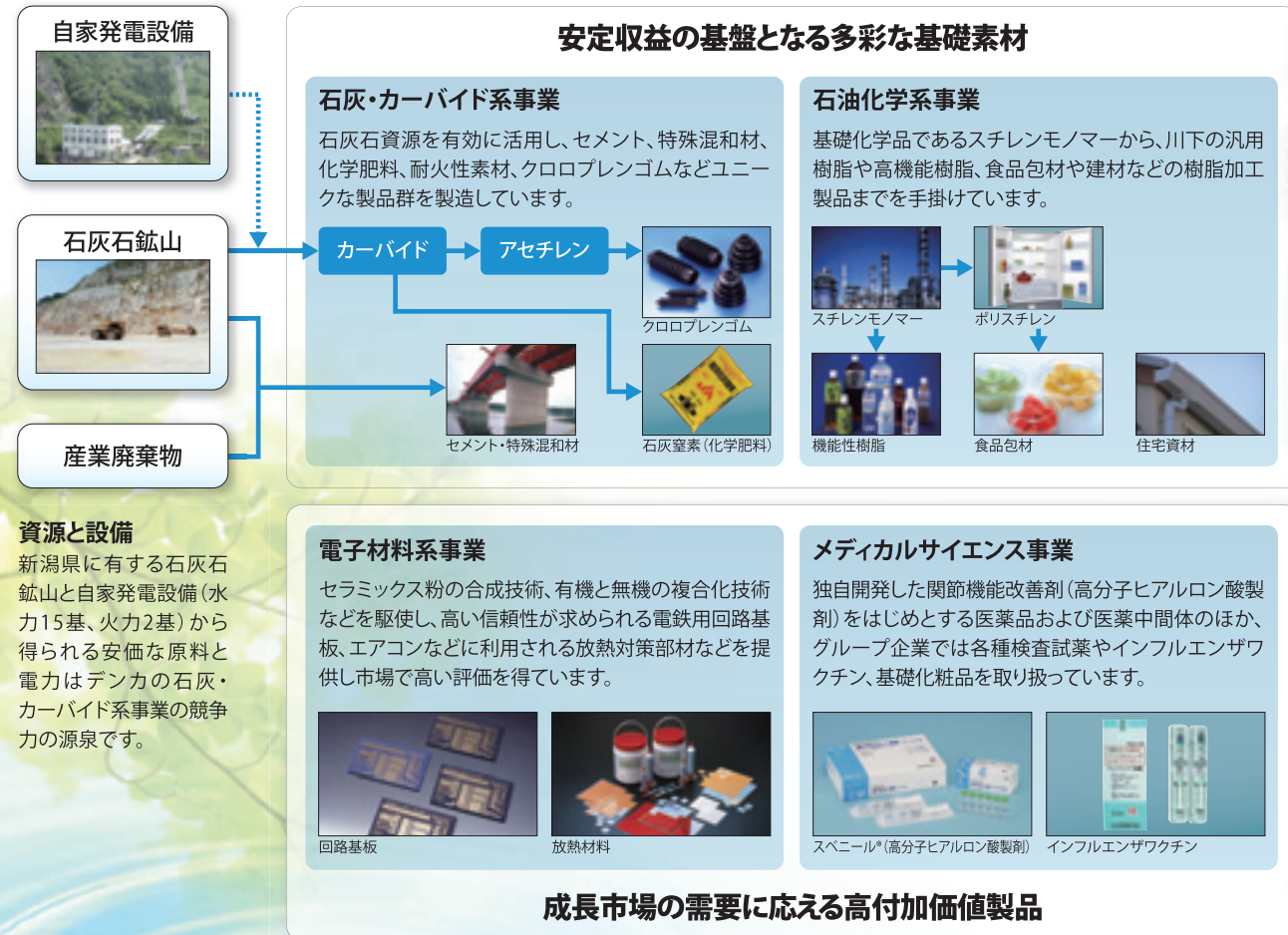
2010年6月

代表取締役社長

川端 世輝

高い技術力で「資源」から「価値あるモノ」を創造

総合化学メーカーとして、自社資源・資産を活かした多彩な基礎素材で安定収益を確保する一方で、成長市場の需要に応える付加価値の高い機能製品を開発・提供しています。



資源と設備
新潟県に有する石灰石鉱山と自家発電設備(水力15基、火力2基)から得られる安価な原料と電力はデンカの石灰・カーバイド系事業の競争力の源泉です。

成長戦略 1 海外市場での販売拡大

海外売上高比率を現状(2009年度)の約24%から2015年までに50%以上に引き上げることを目指し、海外での販売拡大に取り組んでいます。
国内市場が成熟するなかで、将来にわたって高い成長が期待される海外市場を重視し、さまざまな施策を実行しています。

- 主要施策**
- アジアを中心とした拠点拡充 → P8 (News & Topics)
 - 重点製品の営業活動強化
 - ・クロロプレンゴム
 - ・電子材料

成長戦略 2 競争力ある製品の強化

「強いものをより強く」をキーワードに掲げ、高い市場競争力で収益を支えている事業や今後の成長を牽引する事業をさらに強化するために、積極的に投資を進めています。

- 主要施策**
- 生産能力の増強 → P6 (特集)
 - ・クロロプレンゴム
 - ・スペニール® (高分子ヒアルロン酸製剤) など

成長戦略 3 成長分野における集中的な多製品展開

ぶどうの房(クラスター)のように、成長分野において優位性のある技術を軸に、周辺分野への集中的な多製品展開を進めています。
また、そのためのより質の高い研究開発を実現するため、研究開発拠点を再編するなど、機動的で柔軟な体制づくりを目指しています。

- 主要施策**
- LED関連部材の展開
 - ・サイアロン蛍光体
 - ・放熱基板
 - 太陽電池関連部材の展開 → P8 (News & Topics)
 - ・ソーラーロック
 - ・DXフィルム

青海工場の生産能力を増強し、2つの戦略製品拡充

デンカでは「強いものをより強く」をキーワードに掲げ、高い市場競争力を持つ製品に対し、積極的な設備投資を進め、生産能力を増強しています。今回の特集では、重要な役割を果たす青海工場と2つの戦略製品について報告します。



青海工場

豊富な資源を有効活用

水力発電

石灰石(原料)

海外戦略製品

クロロプレングム

輸出(欧州、インド、中国など)

販売先

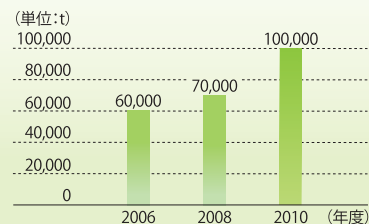
自動車メーカー、機械メーカー、精密機器メーカー、スポーツメーカー

用途

自動車部品、フォームラバー、一般工業用品など



生産能力の推移



国内戦略製品

スベニール®

(高分子ヒアルロン酸製剤)

国内

販売先

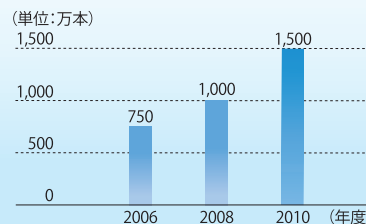
医薬メーカー

用途

医療用医薬品(関節注入剤)



生産能力の推移



目標と戦略

青海工場で主力製品の能力増強を実施、市場シェア拡大を図る

デンカは2015年の創立100周年に向けた総合的な取り組み「DENKA100」を2007年に策定いたしました。これは、「高い技術力で資源から価値あるモノを生み出す企業となる」ことを基本理念に据え、2015年までに営業利益を2006

年度の2倍の600億円(連結)とすることを数値目標としています。

目標達成のための重要な戦略の一つとして、「強いものをより強く」というキーワードを掲げ、競争力の高い製品の一層の伸長を図っています。例えば青海工場では「クロロプレングム」や関節機能改善剤「スベニール®(高分子ヒアルロン酸製剤)」の能力増強工事を行いました。

製品施策① クロロプレングム

設備増強と販売拠点強化でグローバルトップを目指す

デンカクロロプレングムは、石灰石と水力発電という豊富な自社資源からつくられます。09年度末には世界最大となる年産10万トン体制を敷くとともに、インドほかにグループ会社の海外拠点を新設、旺盛なアジア需要を取り込むことで成長し続けます。



クロロプレングムプラント

製品施策② スベニール®(高分子ヒアルロン酸製剤)

需要の伸びに生産能力1.5倍増の新設備で対応

スベニール®は、当社が独自の発酵法で製造する高分子ヒアルロン酸を原薬に、中外製薬(株)が製造販売する注射薬で、関節機能改善剤として年々需要が伸びています。2010年秋製造開始を目指して試操業中で、生産能力は年産1,500万本と、現在の1.5倍に増加します。



スベニール®新プラント完成予想図

高い技術力で確かな品質を創りだす

当工場は、石灰石を原料にセメント、カーバイド、肥料、特殊合成ゴムを製造する一方で、医薬品までも手がけるユニークな工場です。なかでも独自の技術で開発、企業化したデンカクロロプレングムは、その高品質と優れた物性から世界市場で高いシェアを誇ります。

またスベニール®は、ヒアルロン酸製剤として世界で初めて関節リウマチに係る効能を取得しており、各方面から高い評価を得ています。これからもデンカの主力工場として、さらに技術に磨きをかけ、品質管理を徹底し、皆様の信頼に応える工場であり続けたいと思います。

執行役員 青海工場長 奥田 章彦



アジアを中心とした拠点拡充

中国代表部を新設、事業展開を加速

デンカでは、経済発展が進む新興国を中心とした海外市場での販売拡大を経営の重要テーマと考えています。高成長を続ける中国においても、これまで上海・香港に販売拠点、蘇州に生産拠点を設立し、事業展開を進めてきましたが、さらに2010年4月には、台湾も含めた中国経済圏での当事業を統括する「中国代表部」を上海に新設し、責任者として担当役員を現地に常駐させる体制を整えました。地域情報を一元管理し、地域戦略の策定・遂行の意思決定を迅速化することにより、さらなる事業展開の加速を図っていきます。

中国における拠点



中国代表部のオフィスビル

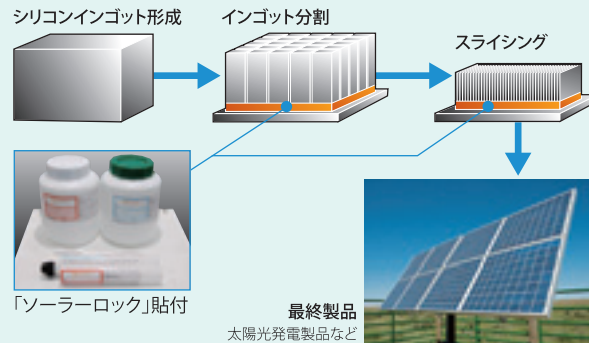
太陽電池関連部材の展開

仮固定用接着剤「ソーラーロック」の展開

「ソーラーロック」は、太陽電池用シリコンウエハの製造工程(スライシング工程)での使用を目的に開発された仮固定用接着剤です。一般的なエポキシ系接着剤と比較して、①常温で速やかに硬化するため工程の大幅な短縮が可能、②溶剤を使わずに温水で剥離するため環境にやさしいという特長があります。

太陽光発電は、クリーンエネルギーとして注目されており、将来的にも高い成長が見込まれる分野です。現在は、国内および台湾向けの販売が中心ですが、今後は中国や東南アジア、ヨーロッパにおいても、積極的に販売を進めていきます。

太陽電池用シリコンウエハの製造工程



「ソーラーロック」貼付

最終製品

太陽光発電製品など

Face of DENKA
その知られざる素顔

Vol.2 環境負荷低減と製品のコスト競争力を
自家水力発電が下支え

デンカは、高い技術力でさまざまな製品をつくり、産業や暮らしに広く貢献しています。このコーナーでは当社の特徴的な事業をご紹介しますが、今回は、カーバイド化学のバイオニアであるデンカの競争力の源泉であるとともに、クリーンなエネルギーを生み出す自家水力発電設備をとりあげました。



競争力の源泉

青海工場周辺には、10カ所の自社水力発電設備と5カ所の準自家水力発電設備があり、工場で使われる電力の約5割(原油換算15万kℓ相当)をまかなっています。水力発電の安価な電気によって石灰石は、カーバイド、アセチレンと姿を変えた後、世界のトップメーカーとして当社が誇る「デンカクロロレン」になります。水力発電は当社カーバイド化学の競争力の源泉であり、デンカを支える縁の下の力持ちです。

クリーンなエネルギー

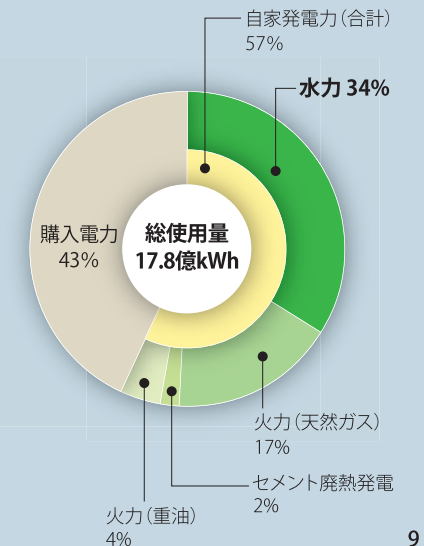
デンカの水力発電設備は、急峻な山の斜面を流れる河水の落差を利用した水路式です。水力発電の電気は、自然界を循環する水からつくられ、発電時にCO₂を全く排出しないクリーンなエネルギーとして、今改めて注目されています。デンカは水力発電を80年以上も利用してきましたが、これからも設備の更新に合わせて発電効率を高めるなど、一層の有効活用に努めていきます。

水力発電所分布図



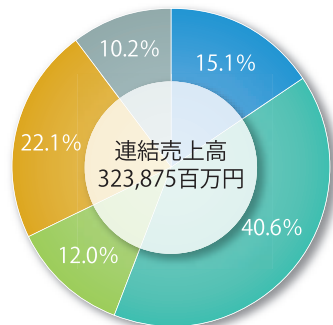
- ① 青海川発電所 (3,300kw)
- ② 小滝川発電所 (4,200kw)
- ③ 大網発電所 (25,100kw)
- ④ 大所川発電所 (8,400kw)
- ⑤ 横川第1発電所 (10,000kw)
- ⑥ 横川第2発電所 (16,000kw)
- ⑦ 海川第1発電所 (3,800kw)
- ⑧ 海川第2発電所 (4,400kw)
- ⑨ 海川第3発電所 (2,600kw)
- ⑩ 海川第4発電所 (900kw)
- ⑪ 姫川第6発電所 (準自家用26,000kw)
- ⑫ 滝上発電所 (準自家用15,000kw)
- ⑬ 長梅発電所 (準自家用5,000kw)
- ⑭ 笹倉第2発電所 (準自家用10,200kw)
- ⑮ 北小谷発電所 (準自家用10,700kw)

2009年度電源別電力構成比率 (全社)

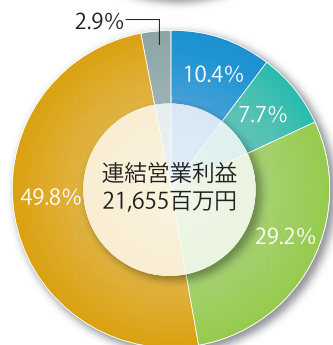


デンカの事業セグメントは、製品の種類・性質を考慮して4つの事業（無機系素材、有機系素材、電子材料、機能・加工製品）とその他の事業（商社等）に分かれています。当期の業績は、販売価格の下落や円高の影響から無機系・有機系素材事業は減収となったものの、電子材料関連製品の需要が前年度下期の落ち込みから早期に回復したほか、医薬品等の販売も増加し、大幅な増益となりました。

セグメント別
連結売上高の割合



セグメント別
連結営業利益の割合



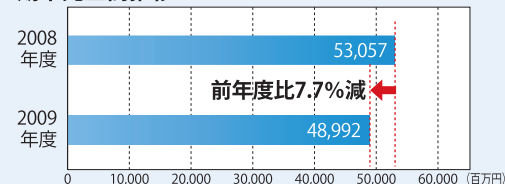
- 無機系素材事業
- 有機系素材事業
- 電子材料事業
- 機能・加工製品事業
- その他事業

無機系素材事業



- 肥料
- 無機化学品
- セメント
- 特殊混和材

期末売上高推移



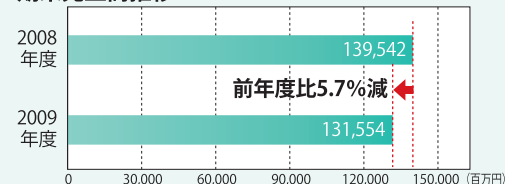
肥料は、第1四半期に価格改定を見込んだ買い控えがあり、7月以降は販売数量が回復したものの減収となりました。また、耐火物、鉄鋼用材料、セメントも総じて低調に推移し、減収となりました。特殊混和材は、トンネル工事用急結剤“デンカナトミック”の販売数量が増加し、増収となりました。

有機系素材事業



- 樹脂原料
- 合成樹脂
- 酢酸系加工品
- 合成ゴムなど

期末売上高推移



スチレンモノマーは、販売数量が堅調に推移し増収となりました。スチレン系樹脂は、輸出を中心に販売数量が回復に向かいましたが、原材料価格の変動にともない販売価格が下落し、減収となりました。クロロプレンゴムは、中国やアジアでの拡販の成果や自動車関連用途の復調から販売数量が回復しましたが、円高の影響もあり減収となりました。

電子材料事業



- 電子部材
- 電子梱包材
- 機能性セラミックス

期末売上高推移



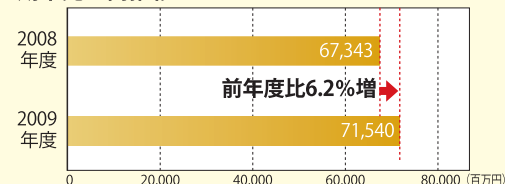
産業機器向け電子回路基板、ICチップなどの封止材向けシリカフィラー、電子部品搬送用資材、産業用接着剤“ハードロック”など、主要製品の需要が急回復し、増収となりました。さらに、下半期に新製品として販売を開始した白色LED用サイアロン蛍光体も順調に立ち上がり、販売数量を伸ばしました。

機能・加工製品事業



- 食品梱包材
- 建築資材
- 産業資材
- 医療関連

期末売上高推移



医薬では、新型インフルエンザ流行の影響により子会社デンカ生研(株)のインフルエンザワクチンや検査試薬の販売数量が増加したほか、関節機能改善剤(高分子ヒアルロン酸製剤)の販売数量が順調に増加し、増収となりました。また、食品包材用シートやデンカポリマー(株)の加工製品も堅調に推移しました。

連結財務諸表(要旨)

連結貸借対照表

科目	当期 (2010.3.31)	前期 (2009.3.31)
資産の部		
流動資産	138,360	122,862
現金・預金	6,856	6,126
受取手形・売掛金	74,843	55,396
たな卸資産	44,413	48,973
その他	13,017	12,618
貸倒引当金	△770	△253
固定資産	262,046	255,049
有形固定資産	207,005	202,310
無形固定資産	3,476	4,956
投資有価証券	39,492	34,036
その他	12,383	14,035
貸倒引当金	△310	△288
① 資産合計	400,407	377,912

財務諸表のポイント

Point① 資産合計(総資産)

資産合計(総資産)は、需要回復にともなう売上債権の増加や株式市況の上昇による投資有価証券評価額の増加などにより前年同期に比べ224億95百万円増加して4,004億7百万円となりました。

(単位:百万円)

科目	当期 (2010.3.31)	前期 (2009.3.31)
負債の部		
流動負債	150,689	137,034
支払手形・買掛金	45,499	27,246
短期借入金	48,709	49,730
コマーシャルペーパー	9,000	11,000
1年以内償還社債	—	10,000
その他	47,480	39,057
固定負債	89,401	90,734
社債	25,000	20,000
長期借入金	37,866	45,034
その他	26,534	25,700
② 負債合計	240,091	227,769
純資産の部		
株主資本	147,190	139,186
資本金	36,998	36,998
資本剰余金	49,303	49,303
利益剰余金	64,550	56,581
自己株式	△3,662	△3,697
評価・換算差額等	10,634	8,414
少数株主持分	2,491	2,542
純資産合計	160,316	150,142
負債及び純資産合計	400,407	377,912

Point② 負債合計

負債合計は、有利子負債の削減を積極的に行いましたが、生産量増加にともなう仕入債務の増加などにより、前年同期に比べ123億22百万円増加して2,400億91百万円となりました。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当期 (2009.4.1~2010.3.31)	前期 (2008.4.1~2009.3.31)
売上高	323,875	334,130
売上原価	251,411	271,590
販売費・一般管理費	50,809	52,237
③ 営業利益	21,655	10,302
営業外収益	1,543	1,968
営業外費用	6,310	9,176
経常利益	16,888	3,094
特別利益	—	—
特別損失	1,048	1,132
税金等調整前当期純利益	15,839	1,961
法人税、住民税及び事業税	6,960	1,322
法人税等調整額	△1,644	△787
少数株主利益	49	△13
当期純利益	10,474	1,439

Point③ 営業利益

営業利益は、電子部品や半導体産業向けを中心に高い付加価値を持つ製品群の需要が早期に回復したほか医薬品等の販売も増加し、前年同期に比べ113億53百万円増加して、216億55百万円と大幅な増益となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当期 (2009.4.1~2010.3.31)	前期 (2008.4.1~2009.3.31)
④ 営業活動によるキャッシュ・フロー	46,418	5,794
投資活動によるキャッシュ・フロー	△28,377	△33,876
財務活動によるキャッシュ・フロー	△17,262	31,096
現金及び現金同等物に係る換算差額	△40	△71
現金及び現金同等物の増減額	738	2,942
現金及び現金同等物の期首残高	6,077	3,162
新規連結子会社及び連結除外会社による現金及び現金同等物の影響額	—	△27
現金及び現金同等物の期末残高	6,815	6,077

Point④ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益や運転資金の改善、また法人税の還付により前年同期に比べ406億24百万円収入増の464億18百万円の収入となりました。

会社概要 (2010年3月31日現在)

設立 1915年(大正4年)5月1日
 資本金 369億9,843万6,962円
 従業員数 連結4,742名 単体2,718名
 事業所 本社
 〒103-8338 東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号
 日本橋三井タワー
 TEL:03-5290-5055
 支店
 大阪、名古屋、福岡、新潟、北陸(富山市)、札幌、東北(仙台市)
 国内営業所
 長野、群馬、広島、四国(高松市)、秋田
 海外営業所
 台湾(台北市)
 工場
 青海(新潟県糸魚川市)、大牟田、千葉(千葉市原市)、渋川、大船(神奈川県鎌倉市)、伊勢崎
 研究所
 中央研究所(東京都町田市)
 電子材料総合研究所(群馬県渋川市)
 高分子材料総合研究所(千葉市原市)
 海外現地法人
 ニューヨーク、デュッセルドルフ、シンガポール、上海、蘇州、香港

役員一覧 (2010年6月22日現在)

取締役および監査役ならびに執行役員

代表取締役社長 兼 社長執行役員……………川端 世輝
 代表取締役 兼 専務執行役員……………前田 哲郎
 代表取締役 兼 常務執行役員……………吉高 紳介
 取締役 兼 常務執行役員……………星 守
 取締役 兼 常務執行役員……………佐久間 信吉
 取締役 兼 常務執行役員……………渡辺 均
 取締役 兼 常務執行役員……………小野 健一
 取締役 兼 常務執行役員……………植松 大 一郎
 取締役(社外)……………田中 紘三
 取締役(社外)……………堀 越 董
 上席執行役員……………大石 秀夫
 上席執行役員……………青柳 龍弘
 上席執行役員……………綾部 光邦
 上席執行役員……………藤井 正 太郎
 上席執行役員……………杵山 信二
 執行役員……………玉木 昭平
 執行役員……………宇田川 秀行
 執行役員……………清水 紀弘
 執行役員……………山本 学
 執行役員……………狩野 利春
 執行役員……………小山 一幸
 執行役員……………奥田 章彦
 執行役員……………松下 三 四郎
 常勤監査役……………遠竹 行紀
 常勤監査役(社外)……………田中 隆康
 監査役……………土亀 憲一
 監査役(社外)……………多田 敏明

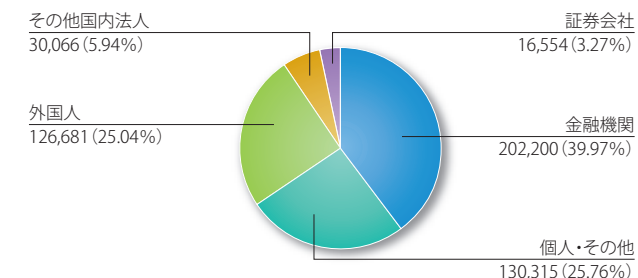
株式の状況 (2010年3月31日現在)

発行可能株式総数……………1,584,070,000株
 発行済株式総数……………505,818,645株
 株主数……………50,354名

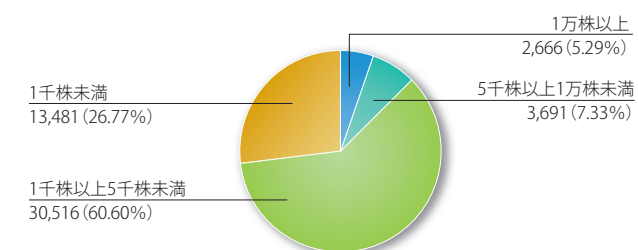
大株主

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	38,784	7.66
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	38,383	7.58
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	17,010	3.36
全国共済農業協同組合連合会	15,965	3.15
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託みずほ銀行口再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社	15,275	3.01
電気化学工業株式会社	14,738	2.91
三井生命保険株式会社	12,908	2.55
ガバメント オブ シンガポール インベストメント コーポレーション ビー リミテッド	7,819	1.54
三井住友海上火災保険株式会社	6,916	1.36
三井物産株式会社	5,437	1.07
シティバンクホンコンエス/エイフアンド115	5,398	1.06

株式所有者別分布状況 (単位:千株)



株式所有数別分布状況 (単位:名)



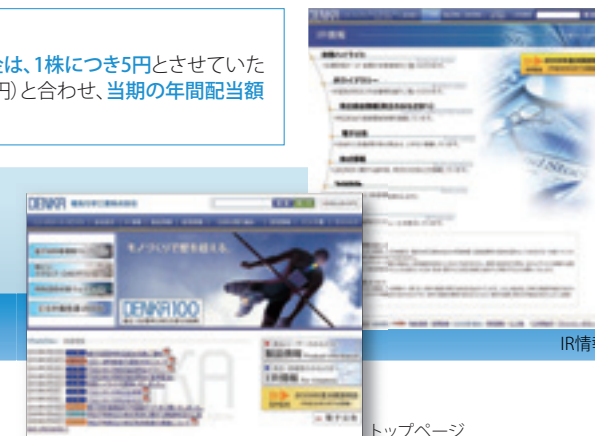
当期(2010年3月期)の「期末配当金」のお支払いについて

配当金計算書または配当金領収書にてご案内のとおり、**当期の期末配当金は、1株につき5円**とさせていただきます。これにより、昨年12月お支払いの中間配当金(1株につき3円)と合わせ、**当期の年間配当額は1株につき8円**となります。

最新の企業・IR情報について

当社ホームページにおいて最新の企業情報やIR情報をご確認いただけます。ぜひご利用ください。

<http://www.denka.co.jp/>



IR情報

トップページ